

概要

運動することによって心臓に負担をかけ、安静時では分からない異常を見つける検査です。トレッドミル負荷心電図検査とは異なり、安静時と運動後の心電図の変化のみ記録します。

検査方法

初めに安静時の心電図波形を記録します。その後、医師立ち合いの下、音に合わせて凸型の階段を昇り降りしていただきます。運動終了後には直ちにベッドに寝ていただき、再度心電図を記録します。

検査で分かること

1. 心臓に栄養を与える血管に異常がないか

運動によって心臓はより多くの血液を全身に送り、心臓自身の筋肉にもより多くの血液を必要とします。心臓に栄養を与える血管（冠動脈）が細くなったり詰まっている場合、十分な血液を送ることができず、心臓の筋肉がダメージを受けてしまいます。運動前後の心電図の変化から異常の存在を見つけます。

2. 運動中の脈の乱れがないか（不整脈）

運動によって心拍数が増えることにより、不整脈が現れるかどうか、またその頻度の変化を調べます。

注意事項

- ・上半身の衣服はすべて脱ぎ、検査着に着替えていただきます。スカートやワンピースなど、運動に支障がある場合は検査着（ズボン）に着替えていただく場合があります。
- ・運動の際に滑らないよう、靴下は脱いで素足になっていただきます。

所要時間

約 20～30 分程度

よくある質問

Q：運動量はどのようにして決めるのですか？

A：この検査では音に合わせて一定の速さで階段の昇り降りをしていただきますが、音の速さ（階段の昇降回数）は「年齢」、「性別」、「体重」で決定しています。運動時間は「シングルマスター（1分30秒）」、「ダブルマスター（3分）」、「トリプルマスター（4分30秒）」の3種類あり、主治医からの依頼内容に沿って検査しています。
※ただし、「これ以上続けられない」と判断された時点で終了する場合があります。

Q：普段、運動を全くしていないため、体を動かすことが不安なのですが、大丈夫でしょうか？

A：患者様の状態や体調に合わせて、可能な範囲で運動を実施します。担当技師にご相談ください。

Q：運動中に胸の痛みや違和感が現れた時はどうすれば良いのですか？

A：運動中、担当技師が症状について定期的に確認を行いますが、症状が現れた際はすぐに申し出てください。場合によっては運動を中止することがあります。

